

# 社会を明るくする運動 作文コンテスト

第59回「社会を明るくする運動」伊賀市推進委員会では、市内の中学生を対象とした作文コンテストを行い、審査の結果10点の作品が入賞しました。応募された作品は、自分たちの体験を通して明るい社会についての考えが素直に表現され、未来への展望を感じさせるものでした。この中から、最優秀賞の作品と入賞者を紹介します。

「社会を明るくするために」

伊賀市立丸山中学校2年

家柳 香澄

私は社会を明るくするには

どういった活動をしたらいのか、よく分かりませんでした。なぜかと言うとたくさんの方がいる中で少人数ががんばってもそれがたくさんの人に伝わることは難しいと思っただけです。悪いことを広めていくのは簡単だけど、良いことを広めていくには時間がかかると思います。

でも私は学校生活の中で人権学習などをして一人一人の意見について話し合ったり全校で集まって考えていたらみんなの意見を聞いてみると話し合いをする前より少しは人権の大切さが分かってきたという人たちが増えたと思うようになりました。それはただ広めるだけではなく、共感できる人を探していくということだと思います。私は共感するということが、自分と同じ思いを持って

いる人もその思いを人へへと伝えていけば多くの人が共感してくれると思います。もちろんそれにも時間はかかりません。だけどその時間はむだにはならないはずなんです。だから社会を明るくする活動ではまず共感者を増やそうと言うふうに私は思います。

そして社会を明るくする方法では身近なことをしたらいいと思います。例えばこれは私の体験だけど、あいさつです。私は学校の帰りに地域のの人に、

「ただいま」と言ったら、「おかえりなさい。あんたはいつもあいさつしてくれてね。おばあちゃん嬉しいわ。」って言われました。そのとき私が思ったのはただいまというたった一言でも喜んでくれて私も嬉しくなりました。そのとき私は改めてあいさつの大切さに気づきました。こんなふうに身近なことをするだけで相手を喜ばすこともできるし、自分も嬉しい気持ちになることができるのです。今ではそのおばあちゃんは今が通る度、話しかけてくれます。小さい出来事からここまで大きくできることが

できます。だから私はあいさつをすることを心がけています。あいさつは誰にでもできるしあいさつは当たり前といってもいいほどだと思います。だから当たり前でできることはしていくようにしていきたいです。

もう一つ私の体験で嬉しかったことがあります。それは、私が一人でいるとき、誰も話してくれなかったとき二人の友達が話しかけてくれました。それに、私の気持ちも分かってくれていて、すごく優しくしてくれました。私はそのとき私といて楽しいんかな。何んでこんなに優しくしてくれてるんやろうと思います。でもそう思っていたとき、「ずっと味方やで。」

って言ってくれました。私はこのときその言葉があたたかくて心にひびいた気がしました。どんなつらい思いをしてもその言葉が私をばねにしてくれました。そして私は二人の友達にあることを教わりました。一つは一人になったときの悲しさです。私は一人でいる子に話しかけることはできませんでした。でも実際自分がその身になるとすごく悲しかったです。そんなときに

話しかけられるとすごく嬉しいのです。もう一つは友達の大切さです。私は友達を信じることができませんでしたが、いつか裏切られるという思いが強くて信じることができませんでした。そんな思いを持って友達と接しているとき、私は心がモヤモヤしてました。それは、友達を騙しているようにも思えたし友達っていい人かなと思っただけです。でも私は始めてその二人を信じてきたと思えました。そして本当の友達とお思えました。

私はその二人のように友達を大事にできるようになりたいたいと思いました。こういったようなことを私は教えてもらったと思えます。だから自分が嬉しかったと思うことを広げていくと友達っていいなと思えてくると思います。

社会を明るくする方法には自分がしてもらって嬉しいことを広げていってそれに共感してくれる人を増やす活動が大切だと思います。そうすればたとえ少人数から始まったことでも、たくさんの人に伝わり、社会も明るくなると思えました。

## 審査結果(敬称略)

### 【最優秀賞】

家柳 香澄 (丸山中学校2年)

### 【優秀賞】

松尾 隆之介 (緑ヶ丘中学校1年)

河北 紗耶加 (島ヶ原中学校3年)

### 【奨励賞】

早瀬 木実 (崇広中学校2年)

川上 志保 (阿山中学校1年)

増田 歩記 (成和中学校1年)

中 美咲 (大山田中学校2年)

増森 聡明 (城東中学校3年)

安田 紗里彩 (柘植中学校1年)

出口 幸奈 (霊峰中学校2年)